

＜実践の概要＞

責任をもって情報を発信する態度を高めるために、系統的に著作権の概念や引用の仕方を指導する単元や授業を工夫した。単元については、1時間の授業として独立させて行う独立型単元と、教科・領域の中に組み込んで行う組込み型単元を組み合わせる著作権教育を行った。引用の指導については、今年度から完全実施の小学校学習指導要領を受け、国語科の学習の中で引用の良さや引用の仕方を理解させるための授業を実施した。

1. 実践の背景

小学校学習指導要領(文部科学省)は2008年に改訂され、2011年4月から完全実施となっている。今回の改訂では、言語活動の充実に伴い、各教科・領域の中でレポートの作成やポスターセッションなど、調べて、まとめて、伝える学習活動が増えた。その結果、調べたことを引用してまとめる機会も増えた。

小学校学習指導要領国語解説書(文部科学省2008)の中学年「C読むこと」、高学年「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」には、出典や引用等の指導内容について明記されている。同じく、総合的な学習の時間解説書(文部科学省2008)には、情報を発信する際の配慮事項に、情報の作成者の権利を尊重するために、引用や出典等を学ばせることについて示されている。

前学習指導要領に目を向けてみると、引用等の指導については、触れていない。このため、特に6年生では、系統立てて、著作権の概念や引用等について学んでおらず、これらの知識が乏しい。調べて、まとめて、伝える学習活動が増えたからこそ、著作権教育が必要であり、国語科と総合的な学習の時間をうまく組み合わせて指導していくことで、著作権教育を確実に行うことができるのではないかと考える。

2. 実践の目的

国語科や総合的な学習の時間の中に著作権教育を位置付け、責任をもって情報を発信させるために、引用することの良さや引用の仕方を理解させ、自分の考えや著作物を大事にしようとする態度を養う。

3. 児童の実態把握

授業クラスである第6学年4組の子どもたちに「調べる・まとめる・伝える」活動で気を付けていることを自由記述形式で実施し、著作権や引用、出典等にどれくらい気を付けているのかを調べた。その結果は(表1)にあるように、調べる活動で最も回答が多かったものは、「課題に沿うものを調べる」であり、33人中12人の子どもが回答した。また、「丸写ししない」「必要なことだけを書く」と回答した子どもはそれぞれ3人ずつだった。「丸写ししない」というのは、どこまで引用してもいいのかという判断にもつながると考えられるが、引用や出典を明記すると答えた子どもはなかった。まとめる際においても、引用が分かるように書いたり、出典を明記したりすると答えた子どもはおらず、著作権に対する意識がかなり低いことが分かった。

前述したように今年から引用や出典等を指導することになっている。本校で使用する国語科の教科

(表1)「調べる まとめる 伝えるときに気を付けていること」 33人

調べるときに気を付けていること	(人)	まとめるときに気を付けていること	(人)	伝えるときに気を付けていること	(人)
課題に沿うものを調べる	12	わかりやすい文・写真・グラフを選び、見やすくまとめる	11	声の大きさ	12
変なサイトにはアクセスしない	3	相手に分かりやすくする	6	相手のことを考える	6
丸写ししない	3	自分が分かることや、自分の言葉で書く	5	アイコンタクト	4
必要なこと・大切なことだけ書く	3	スペース	3	分かりやすく話す	3
その情報は流さない	3	絵を入れる	2	ゆっくり話す	3
みんなが分かりやすい文章を調べる	3	書体や文字の色を工夫する	3	きはきはと話す	3
料金がかかるサイトに気を付ける	2	みんなが興味のある資料を使う	1	間違っている言葉は言わない	2
一番伝わりやすい資料を探す	2	見やすい大きさお写真	1	資料の見せ方を考えて発表する	1
短くてわかりやすい文を見付ける	1	伝いたいことを見出しに書く	1	しっかりと考えて物事を言う	1
みんなは何を知りたいのかを考える	1	書き間違えの内容にする	1	短く話す	1
間違えないように調べる	1	気になる内容を資料に入れる	1	更に必要なことを伝える	1
ネット検索の用語	1	大切なことだけを書く	1	自分の気持ちを言う	1
難しく考えない	1	絵や文章にあった写真を選ぶ	1	勇気をもって言う	1
いくつか調べる	1	丁寧に書く	1	タイミングよく資料を映す	1
キッズページを使う	1	よく考えてから書く	1	必要なことだけを見せる	1
面白い情報を選ぶ	1	発表のときすらすら流れるようにする	1	順序良く話す	1
いらぬものを印刷しない	1				
計	40	計	40	計	42

書では、引用の意味やそのやり方などは4年生で学習する。6年生にとっては既習事項のはずだが、十分な学習ができておらず、著作権に対する意識が低い。このような子どもたちだからこそ、著作権の概念や引用の仕方や引用の良さを理解させる指導が必要である。

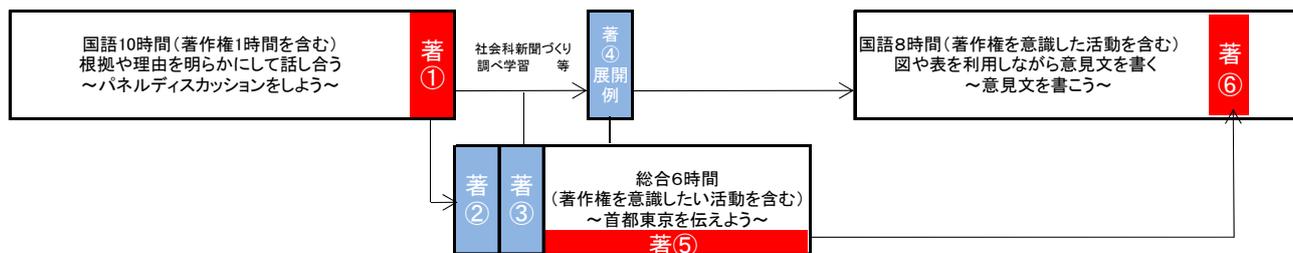
4. 単元の構想

著作権を意識して情報を取得したり発信したりすることは、相手を尊重し、責任ある情報発信につながる。そこで、「著作権に気を付けた情報発信」という大単元を組み、目標を次のように設定した。

- ・責任をもって情報を発信しようとする態度を養う。
- ・著作権、肖像権を守って情報を発信することの大切さを理解する。

著作権を尊重して活動しようとする意識は、一度で身に付くものではなく、場面や著作物を変えて何回も向き合うことが大切だと考える。そこで【図1】にあるように、著作権や引用・出典を学習する際は、ある単元に組み込んで指導する場合と、独立した1時間として指導する場合とに分けた。

独立した単元として指導する内容としては、(1) 著作権や肖像権に気を付け、見る人のためになる情報を発信する。(2) 音楽CDの著作権を尊重した行動がとれるようになる。(3) 引用の良さや引用の仕方を理解する。という3つの内容を考えた。また、単元に組み込んで指導する内容としては、調べ学習や意見文を書く活動で、引用や出典に気を付けて学習を進めたり、その時に応じて引用や出典が書いてあることの良さを立ち止まって考えさせたりするものとした。このように、独立して指導したり、組み込んで指導したりすることを通して、引用や出典などを含めた著作権についての理解を深めさせることにした。



* ■ は、教科や領域の中に組み込んで指導するもので、■ は、1時間の取り出しとし、独立させた単元として指導するもの。

【図1】単元構想

指導計画は次のように考えた。

	教材名	教科 時間	組込み単元 独立単元	内容	使用教材
著 ①	パネルディスカッションをしよう	国語 1時間	組込み型単元	「パネルディスカッションをしよう」(10時間)の単元の終末に、信頼できる情報という切り口から、出典や引用があることを教える。	・教育出版6年国語上「パネルディスカッションをしよう」 ・各自が作成した資料
著 ②	責任ある情報発信	総合的な学習の時間 1時間	独立型単元	みんながためになる情報を発信することの大切さや、ブログに発信するときには、著作権や肖像権に気を付ける必要があることを理解させる。	・春野家ケータイ物語 第5話 (NTTドコモ・メディア教育開発センター)
著 ③	1枚のCDができるまで	総合的な学習の時間 1時間	独立型単元	1枚のCDが作られる過程には、多くの人の願いや夢が込められていることに気付き、音楽CDの著作権を尊重した行動がとれるようになる。	・ハッピーミュージックサイクルって？ (一般社団法人日本レコード協会) http://www.riaj.or.jp/kids/about.html
著 ④	資料の引用について考える	国語科 1時間 (展開例)	独立型単元	修学旅行を報告するポスターセッションの発表原稿作りを通して、引用して説明する良さを感じ取り、引用の仕方を理解させる。	・自作教材 ・国会のしくみと法律ができるまで 参議院：参議院特別体験プログラム
著 ⑤	首都東京を伝えよう	総合的な学習の時間 適時指導	組込み型単元	適時、著作権、出典、引用に気を付けながら発表資料を作成・報告できるようにさせる。	
著 ⑥	意見文を書こう	国語科 1時間	組込み型単元	「意見文を書こう」(8時間)において、説得力のある意見文の作成を通して、出典や引用の良さを再確認させる。	・教育出版6年国語下「意見文を書こう」 ・各自が作成した意見文

5. 授業の実際

ここでは、【著④】国語科「資料の引用について考える」の事例を紹介する。

(1) 学習の目標

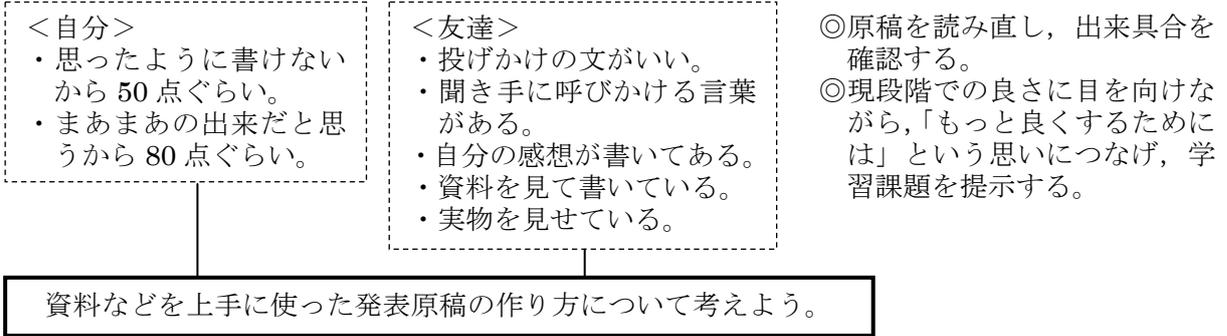
- ・引用を用いた説明の良さを感じ取ることができる。
- ・引用の仕方が分かる。

(2) 授業の展開

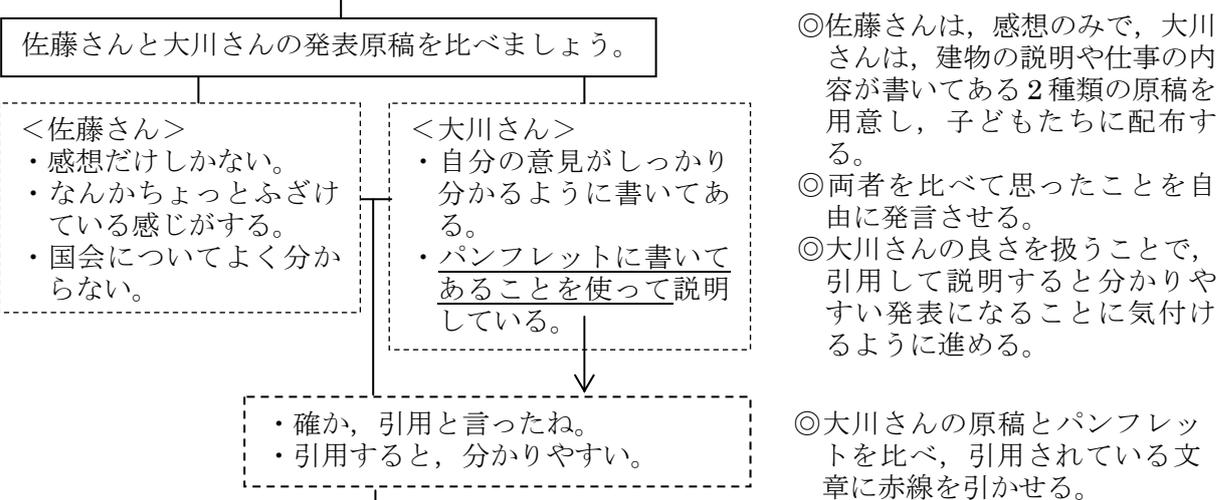
<表記記号の意味> ○学習活動, ◎指導上の留意点や支援等, (評) 評価,
 予想される児童の反応, 学習課題, 発問, 本時のまとめ

<展開>

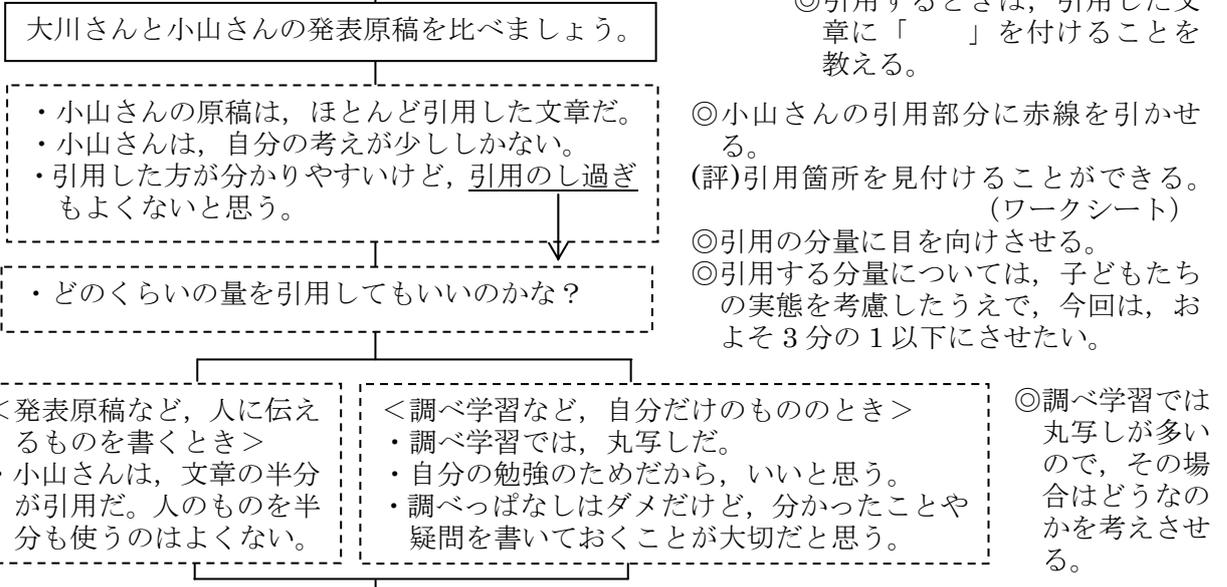
○自分や友達の発表原稿を読み直し、出来具合を振り返る。



○引用されていることの良さについて話し合い、引用の仕方を知る。



○どれくらい引用していいのか、分量について考える。



- ・資料を活用して原稿を書くときは、引用して書くときと分かりやすい。
- ・引用するときは、引用した文章に「」を付ける。
- ・引用にし過ぎはよくない。分量に気を付ける。

○本時の学習を振り返りながら、自分の発表原稿の修正箇所を考える。

- ・引用が分かるように、「」を付けたいと思う。
- ・ほとんど丸写しの原稿だったので、引用する量を減らしたい。

(評)引用や出典に気を付けて原稿を書こうとする。(発表・振り返りカード)

6. 授業での子どもたち

本授業は、子どもたちが発信する情報を「確かで分かりやすいもの」にするために、引用の良さや引用の仕方について理解させるもので、独立型単元として位置付けた。

最初に修学旅行を題材としたポスターセッションの原稿の出来具合を振り返った。その中で、わりとできていると判断した子どもの原稿を取り上げ、どこが良いのか、あるいは、もっと良くするためにどうしたらいいのか意見交換を行い、資料を上手に使った発表原稿の書き方について目を向けるようにした。次に、佐藤さんや大川さんが書いた発表原稿【図2】を比べた。子どもたちからは、「感想しか書いていない佐藤さんの原稿は、自分の思いを伝えるには良いが、聞き手である5年生にとっては分かりにくい」という意見が出された。一方、大川さんの原稿に対しては、「国会についての説明が書かれており、国会に行ったことがない人でもよく分かる」「国会のパンフレット(国会のしくみと法律ができるまで参議院)を上手に活用している」等の意見が出された。そこで大川さんの原稿とパンフレットを比べ、同じ文章に赤線を引き【図3】、引用する場合は「」を付けることを知識としておさえた。さらに、自分の思いは大切にしたい方が良いが、聞き手にとっての分かり易さを考えると、資料から引用した説明の方が良いという話し合いにつながった。

引用する分量に目を向けるために、大川さんと小山さんの原稿を比べた。比べた瞬間に子どもたちからは、「小山さんの原稿は、引用のし過ぎである」との意見が出された。引用は「」でくくると学んだ子どもたちなので、小山さんの引用量の多さに目が向いたのである。そこで、引用量を比べ易くするために、大川さんの時と同じように赤線を引かせ、「引用すれば分かりやすいが、こんなにたくさん引用してもいいのか」という話し合いを行った。その結果、子どもたちは、「ちょっと引用、次は自分の意見、そしてまたちょっと引用、そして自分の意見みたいに、分かるように区別して書く」ということになった。授業構想

の段階では、引用の量を主従関係でとらえさせるのは難しいと思いき、引用してもよい分量を3分の1程度にしようと考えていた。しかし、予想に反して子どもたちは、「具体的な量というのではなく、分かりやすさと自分らしさを織り交ぜて原稿を作ればいい」と考え、教師がまとめるより上手な表現で引用してもよい分量についてまとめることができた。

授業の振り返りでは、引用部分と自分の意見や思いを分けて書きたいという子どもの姿が見られ、「ずーっと引用した文を書くのではなく、そのことに対して自分の思ったことや感じたことを加える。」や、引用しすぎている自分を反省し「引用が分かるように書きたい。」など引用の表記の仕方に気を付けようと思

6年花組 佐藤ひろき (原稿の一部)
国会議事堂は、どんなところなのか知っていますか。とにかく、大きくて、古めかしい感じがして、ろうかも静かに歩かなければいけないところでした。部屋のとびらもとても大きく、こげ茶色でした。
国会の中を列になって歩きました。国会には、見学者がたくさんいました。野田総理に会えるのかなあと思っていたけど、会えませんでした。来年、みなさんが行ったときは、総理大臣に会えるといいと思います。
6年花組 大川まさ子 (原稿の一部)
国会議事堂は、どんなところか知っていますか。ここには、政治を行う国会があります。このパンフレットに書いてあったのですが、「国会は、法律を作ったり、変えたり、廃止したりする立法権」もっています。「国会は、全国民を代表とする選挙された議員により組織されています。」
この写真を見てください(パンフレットを見せる)。左手が衆議院、右手が参議院です。
国会は、どっしりした、古めかしい感じがしました。法律を決める大事なところで、私たちのくらしがよくなるための仕事をしている人がたくさんいます。国の中心でもあるので、ぜひ、6年生になったら、ぜひ、行ってみてください。
6年花組 小山みき (原稿の一部)
国会議事堂は、どんなところなのか知っていますか。ここには、選挙で選ばれた国会議員さんたちがいます。
「国会は、衆議院と参議院の二つの議院から構成されています。これを二院制といいます。」この写真を見てください。「左手が衆議院、右手が参議院です。二院制には、①国民の様々な意見をより広く反映させることができる。②二つの議院が審議することで、重要な決定を慎重に行える。③一つの議院の行き過ぎを抑えたり、足りないところを補ったりできるなどの利点があります。」とパンフレットに書いてありました。
国の重要な仕事をするところなので、みなさんにも国会のことをぜひ、知ってほしいと思います。

【図2】授業で使用した原稿



【図3】引用箇所を赤線で引く子ども

える子どもの姿も見られた【図4】。

- 著作権を守らないと最初に作った人が迷惑するから、著作権を守った方がいいと思った。今日の授業でやったように、本や資料を使う時は、「」を付けたり、出典を書いたりすることが大事だということが分かった。(M.Y)
- 引用をほとんど使っていないから、少し引用を使おうと思った。引用をしているところを「～から」みたいに書く。引用することは、相手に分かりやすく説明するためにはいいけど、引用しすぎると自分らしさがなくなってしまう。引用するのもほどほどにした方がいいと思った。(M.K)
- 引用が多いところもあったから、もう少し多く自分の思っていることを書き入れるようにしたい。(R.S)

【図4】自分の原稿を再点検して直したいと思ったところ（子どもの記述より）

7. 成果と課題

(1) 資料の引用について考える実践の成果

【著④】「資料の引用について考える」授業の終末に、自分の原稿をどう直すかを書かせ、まとめたものが(表2)である。子どもたち全員が引用について自分はどうしたいのかを具体的に振り返ることができた。

① 丸写し＝引用のし過ぎだった自分を反省する

授業後、子どもたちは、自分の原稿を読み直すと、引用部分が多すぎたり、自分の考えが書いていなかったりすることに気付いた。これは、引用する量はどのくらいがいいのかという話し合いが効いているからだと考えられる。また、一方では、自分の原稿に引用文がなかったことに気づき、分かりやすく伝えるためには、自分の体験や感想だけでなく、事前に調べたことやパンフレットに書いてあることを引用した方が良いと考えるようになった。

② 引用と自分の考えを分けて書く

「引用と自分の考えをばらして書く」というのは、子どもの言葉である。このことは、引用した部分と自分の考えを区別して書くこと・引用したことに対しては、自分の考えを述べるという子どもたちの思いの表れである。この実践を通して、人のものと自分らしいものを区別し大事にしたいという子どもの思いが育った。

(2) 引用や出典を明記する意識の高まり

「調べる まとめる 伝えるときに気を付けていること」の再調査を行った。その結果、大単元の始まりで調べたときは、著作権や引用・出典などの記述がなかった子どもたちだが、大単元の終末ではぐんと増えた。特に「まとめる」場面では、著作権や引用・出典についての記述が多かった(表3)。著作権や引用・出典という言葉を使って気を付けることを説明できたり、引用を用いながら分かりやすくまとめたらしよんとする子どもが増えたのは、著作権教育を積み重ねた成果だと考えられる。

(3) 今後に向けて

本実践を通して、子どもたちは引用する良さや引用する分量、引用と自分の考えの関係などを考えた。その結果、引用と自分の考えを区別し、引用も自分の考えも共に大切であると考えている子どもたちに育ってきているといえる。今後は、ここでの学びを他教科や普段の生活に広げてほしい。そのためには、普段から著作権を意識できる言葉がけをする必要がある。また、今回の実践を行うことで、「著作権とは何か」「引用をどう教えればいいのか」「指導の系統性を職員で理解する必要があるのではないかなどについて教員間でも話題となり、意見交換を行うことができた。著作権教育は私たちの生活と密接な関係がある。だからこそ、引き続き子どもも教師も著作権に対する意識を高めていけるようにしていきたい。

(表2)【著④】「資料の引用について考える」授業の振り返りの結果 33人

原稿で見直したいこと	人数
引用が多すぎ・自分の考えを入れる	15
「」を付ける	14
引用と自分の考えをばらしながら書く	12
引用文がなかった もう少し入れる	7

(表3)まとめるときに気を付けることの単元初めと単元終末との記述内容 33人

学習前	人数	学習後	人数
わかりやすい文・写真・グラフを選び、見やすくまとめる	11	出典を書く	15
相手に分かりやすくする	6	引用だけでなく自分の意見を入れる	10
自分ができることや、自分の言葉で書く	5	大切なところだけを書く	10
スペース	3	わかりやすい文・写真・グラフを選び、見やすくまとめる	8
絵を入れる	2	引用は同じ所にたくさん書かない。(パランスを考える)	5
書体や文字の色を工夫する	3	「」を書く	5
みんなが興味のある資料を使う	1	聞き手が知りたい内容	4
見やすい大きさお写真	1	著作権に気を付ける	2
伝えたいことを見出しに書く	1	引用しながら書く	2
書き間違えの内容にする	1	文末に気を付ける	1
気になる内容を資料に入れる	1	自分が知りたい内容	1
大切なことだけを書く	1	日記のような文は書かない	1
絵や文章にあった写真を選ぶ	1	丁寧に書く	1
丁寧に書く	1	赤字 引用に関するもの	
よく考えてから書く	1	青字 出典に関するもの	
発表のときすらすら流れるようにする	1	緑字 著作権に関するもの	
計	40	計	65